

1_鬼嫁コンテストの司会を務めたのは鬼北観光大使の榊形浩人さん(写真右)と南海放送アナウンサーの中塚真喜子さん(写真左)／2_夫婦で難問に挑戦。協力し合ってクイズの答えを考え中／3_「これかな」奥さんの声色だけで判断するのはやっぱり難しいのか…困惑の表情を浮かべる夫／4_審査員を務めた夫婦漫才でおなじみ「かつみ・さゆり」さん(写真左・中央)と鬼北観光大使の榊形飛鳥さん(写真右)／5_きじ鍋を全て食べきり喜ぶ鬼嫁と、対照的に食べ疲れてぐったりする夫／6_「かつみ・さゆり」さんによる夫婦漫才。会場中が笑いに包まれた／7_以心伝心ゲームで見事鬼嫁の欲しいものを感じ取り大当たり。夫婦揃って大喜び／8_鬼嫁から愛する夫へ日頃の感謝の気持ちをこめた愛情メッセージ



HOT NEWS

鬼嫁から愛をこめて…

PHOTO_以心伝心ゲームで答えを間違えた夫におもちゃのハンマーで愛の一撃



【写真左から】小室明日香さん正憲さん夫婦、坂本恭子さん昇由さん夫婦、池田ふみさん剛之さん夫婦、宇子さん啓さん夫婦、剛司さん渡部美砂さん

2月14日、広見中学校体育館で「第1回鬼嫁コンテスト」が開催された。これは、鬼北町が推進している「鬼のまちづくり」の一環として行われたもので、鬼北町認定の鬼嫁ナンバーワンを決定するというもの。「鬼嫁」と言えば、残酷で無慈悲、怖いなどのイメージがありますが、今回のコンテストのテーマは「愛」。厳しくも、夫への愛が溢れる鬼嫁たちが集結しました。

第1回目となる今回は、松山市の池田ふみさん・剛之さん夫妻、松山市の弓矢綾子さん・剛司さん夫妻、西条市の渡部美砂さん・啓さん夫妻、宇

和島市の坂本恭子さん・昇由さん夫妻、そして松山市の小室明日香さん・正憲さん夫妻の5組が出場。コンテストではさまざまなゲームが行われ、奥さんの鬼嫁ぶり、そして夫婦の愛と絆が審査されました。

まず行われたのは「鬼北町認定クイズ」。「鬼北町のことを知ってもらおう」と企画されたこのクイズですが、思っていた以上の難問に出場者の方々は悪戦苦闘。時には鬼嫁の出した珍解答に笑いが起こり、間違えすらも明るく笑い飛ばすその姿に、観客にも笑顔が溢れていました。

そして、夫婦の連携が試される「鬼北きじ鍋二人羽織」。これは目隠しをした鬼嫁が夫の後ろに立ち、きじ鍋を食べさせるというもの。早く食べきった夫婦が勝ちとなるため、一気にきじ鍋を夫の口に運ぶ鬼嫁たち。苦悶の表情を浮かべ、「もつとゆっくり」と訴える夫の声には耳を貸さず、ひたすらマイペースに食べさせる鬼嫁に、会場からは拍手と笑いが沸き起こりました。

次に行われた「以心伝心ゲーム」。鬼嫁が夫の名前を呼ぶ声色やニュアンスの違いのみで、カードに書かれている生活用品を持ってくるという難題に、夫たちは鬼嫁の気持ちを汲み取ろうと必死の表情を浮かべていました。この以心伝心ゲームでは他にも、「夫が嫁に直してほしいこと」や「夫の密かな楽しみ」を夫婦それぞれが書き、その答えが一致するかどうかを試されるゲームを実施。鬼嫁の強気な発言や夫のおどおどした姿に、夫婦の日常を垣間見ているかのようでした。

コンテストの最後には、夫から鬼嫁へ、そして鬼嫁から夫へ愛情のこもったメッセージが送られ、会場は温かい空気に包まれました。

記念すべき初代鬼嫁グランプリの栄冠は誰の手に：。コンテストの結果は、来月号の広報「きほく」で報告します。なお、このコンテストの様子は4月3日16時から南海放送で放映されます。